

唾液腺・肺（胸膜・気管を含む）・消化管（食道・胃・十二指腸・大腸）・膵臓・乳腺・子宮・  
卵巣の検査や手術で、組織を採取された患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

#### 記

研究課題名	ヘッジホッグ関連因子 STIL・転写因子 p63 を介した 悪性腫瘍浸潤機構の解明
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 天野 哲也
担当科等	病理学講座
研究責任者	(職名) 講師 (氏名) 伊藤秀明
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	悪性腫瘍が組織に深く入り込む(浸潤)する仕組みの解明を目的としています。
対象となる患者さん	2003年4月より2025年12月までに唾液腺・肺(胸膜・気管を含む)・消化管(食道・胃・十二指腸・大腸)・膵臓・乳腺・子宮・卵巣を生検・手術にて組織を採取された患者さん
研究の方法	<p>愛知医科大学病院にて通常の診断・治療目的のため生検・手術された、診断済み唾液腺・肺(胸膜・気管を含む)・消化管(食道・胃・十二指腸・大腸)・乳腺・膵臓・子宮・卵巣組織検体のパラフィンブロックから未染色薄切標本を作製します。これら標本に H&amp;E 染色を施行すると共にヘッジホッグ関連因子である SCL/TAL1 interrupting locus (STIL) (注 1)、転写因子 p63(注 2)、その他浸潤に関わるたんぱく質の抗体を用いた免疫組織染色・FISH 解析、mRNA 解析を行います。</p> <p>浸潤性腫瘍組織と浸潤を伴わない組織(非腫瘍部・良性腫瘍・上皮内癌)において、STIL 及び浸潤に関する因子の発現・局在を病理組織学的に比較・解析し、臨床的因子についても検討します。</p> <p>注 1: 細胞内で情報を伝達する経路の一つである、ヘッジホッグ経路(ソニックヘッジホッグ経路)に関連しているタンパク質の一つで、主に細胞が分裂するときに必要なことが知られている。</p> <p>注 2: DNA に結合し、遺伝子のスイッチとして働くたんぱく質</p>
研究期間	倫理審査承認日 ~ 2029年3月31日
研究に用いる試料・	試料: 診断済みのパラフィン包埋病理組織検体の残余

情報	情報：患者さんの年齢、性別、既往歴、病期等
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2028年12月31日までに、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部病理学講座 担当者：講師 伊藤秀明 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 12261）